

平成31年度 授業改善推進プラン

第1学年 理科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・授業アンケート（7月実施）から、理科の授業の内容についても、84%の生徒が「よく分かる」「だいたいわかる」と答えており、授業準備など見通しをもって取り組んでいる。
- ・授業アンケート（7月実施）の「授業が楽しい」と答える生徒の割合が72%と高く、「観察・実験が楽しい」と答える生徒の割合が80%と、観察・実験に意欲的に取り組んでいる。
- ・基礎学力の不十分さから中学の理科を学ぶ前の段階（四則演算や漢字の読み書き）の生徒も多い。
- ・提出物を出す習慣が身に付いている生徒が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・家庭学習が不十分なことで既習事項の定着が図れていない生徒が多いことにより、基礎学力の定着を図る必要がある。
- ・理科の授業への興味・関心は高いが、知識や技能の定着が不十分な面も見られるので、基礎的・基本的な計算の知識・技能の定着を図る必要がある。
- ・観察・実験には意欲的に取り組む姿勢が見られるが、結果から、「どうしてそうなるのか」「理由・根拠」を述べられない生徒が多く、科学的な思考が育まれていないこと少なからずあることから、グループ活動を通して生徒同士で考える力を養うことが課題である。

4 具体的な授業改善策

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、重要用語（教科書の太線）を抜き出したプリントでの反復学習を続け、単元ごとに確認を行う。
- ・断片的な知識の暗記ではなく体系的な理解を図る方法として、授業の最初に身近なニュースなどを取り上げ、日常生活の中にある科学への興味を高めていく。
- ・身の回りの事象・現象と理科が密接に関わっていることを感じさせられるよう、適切な例や課題、ICT等を用意し、授業を展開していく。
- ・「めあてー探究ー振り返り」を意識した課題プリント等を使用し、授業を展開していく。
- ・実験技能向上のため、観察・実験のパフォーマンステストを実施する。

第 2 学年 理科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

2 生徒の現状 <定期考査や平成 31 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査等からの分析>

- ・平成 31 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より、教科の内容では、知識・理解の観点の達成率が 42.2%と低い。基礎的、基本的な知識・技能の定着ができていない生徒が多い。
- ・授業アンケート(7月実施)より、「授業が楽しい」と答える生徒の割合が 70%と高く、「観察・実験が楽しい」と答える生徒の割合が 60%と、観察・実験に意欲的に取り組んでいる。
- ・授業アンケート(7月実施)の「予習・復習をしているか」という項目では、66%の生徒が「行っていない」と解答していることから、学習内容が断片的になっている現状がある。
- ・提出物を出す習慣が身に付いている生徒が多い。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・家庭学習が不十分なことで、既習事項の定着が図れていない生徒が多いことにより、基礎学力の定着を図る必要がある。
- ・理科の授業、観察・実験への興味関心は高いが、技能や知識の定着が不十分な面も見られるので、基礎的・基本的な四則演算などの技能・知識の定着を図る必要がある。
- ・授業準備など見通しをもって取り組む力が弱く、指示待ちになっている生徒が多いことが課題である。

4 具体的な授業改善策

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、重要用語（教科書の太線）を抜き出したプリントでの反復学習を続け、単元ごとに確認を行う。
- ・身の回りの事象・現象と理科が密接に関わっていることを感じさせられるよう、適切な例や課題、ICT等を用意し、授業を展開していく。
- ・「めあてー探究ー振り返り」を意識した課題プリント等を使用し、授業を展開していく。
- ・実験技能向上のため、観察・実験のパフォーマンステストを実施する。

第 3 学年 理 科

1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。
- ・都立入試に対応できる基礎的な学力の定着を目指す。

2 生徒の現状<定期考査等からの分析>

- ・昨年度も既習事項の定着が課題であったが、毎時間の復習小テストに取り組んでいる。3学年になり学習意欲の向上が見られる生徒が増えてきた。
- ・授業アンケートの「予習・復習をしているか」という項目では、49.14%の生徒が「行っていない」と解答していることから、学習内容が断片的になっている現状がある。(前年度比-4.5ポイントとなり少し改善)
- ・校内で7月に実施した実力テストの結果では、男女ともに平均点が標準点より高い結果となった。学習内容に関して現段階では、1学年の内容の定着が不十分である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ・知識の定着が不十分であるので基礎学力の定着を図る必要がある。
- ・観察や実験への関心・意欲はあるが、結果をまとめ、考察するということに対して苦手意識が強い。
- ・表やグラフを書くこと、読み取ること、規則性を見いだすことを難しいと感じている人が多い。
- ・既習事項の確認を毎時間の小テストで補えるよう、計画的に取り組んでいる。
- ・課題に対して予想を立てることや、自分の考えを相手に伝える表現力を養う必要がある。
- ・都立入試に対応できるよう、3年間の復習を定期的に提出させている。また、都立入試の問題演習を行っていく。

4 具体的な授業改善策

- ・基礎的、基本的な知識・技能の定着のため、授業の最初に確認テストを行う。
- ・「めあてー探究ー振り返り」を意識した課題プリント等を使用し、授業を展開していく。
- ・身の回りの事象・現象と理科が密接に関わっていることを感じさせられるよう、適切な例や課題を用意し、授業を展開していく。
- ・表現する力を育成するために、他者の、多面的な考え方ができるよう指導する。
- ・ICTを活用し、興味をもたせる映像や実際行った実験をくり返し見直すことで、より分かりやすい授業を目指し、下位層の学力向上に努める。
- ・実験技能向上のため、パフォーマンステストを適宜実施する。